

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	法人全体の研修や外部研修、基礎的な内容を重視したミニ勉強会を行っているが、職員一人一人の現在のレベルを確認し、ステップアップをするような個別の研修は行えていない。	自分自身で目標を明確にし、学びたい内容について検討を行いながら研修プログラムを作成することにより、自ら学び取る姿勢を持った職員を育成する。	職員に自己を見つめなおすためのアンケートを行い、現状と目標を明確に設定する。その後目標に即した研修を個別に計画する。	6 か月
2	19	面会時やあさがお便り、電話等で家族との意見交換や報告は行えているものの、利用者・家族・職員が同じ時間を楽しみながら過ごすような機会が少ない。	グループホームでの小規模な行事の際にも家族に参加してもらい、同じ時間を共有することで利用者のありのままの生活を感じて頂く。	家族を招待してのお食事会の定期開催や、グループホームだけの行事の際にも家族に声をかけて参加して頂く。	12 か月
3	35	火災想定避難訓練を年3回(内2回は夜間想定)、地震想定避難訓練を年1回実施しているが、地域との協力体制は築けていない。	南海大震災等の可能性も考慮し、地域とお互いに協力し合えるような関係を築く。	地域と合同での避難訓練を検討し、東日本大震災の記憶が新しい内に実施する。地域の方への協力を求めるばかりでなく、社会福祉法人として津波や床上浸水時には地域の方々の避難場所や備蓄等を支援できるようマニュアルを再検討する。	12 か月
4					か月
5					か月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。